

経済動向調査レポート

令和5年 第3四半期

(調査対象：令和5年7月～9月)

福崎町商工会

令和5年12月

【目次】

I. 経済動向のポイント	2
II. 兵庫県の経済・雇用情勢	3
1. 概況（全体の状況）	3
2. 県内の主要業種の概況	8
3. 地域の概況	9
III. 景況調査	14
1. 景況調査について	14
2. 概況（全業種）	14
3. 業種ごとの集計	17
①製造業（有効調査数：182件）	17
②卸売業（有効調査数：48件）	18
③小売業（有効調査数：67件）	19
④サービス業（有効調査数：77件）	20
⑤建設業（有効調査数：102件）	21
⑥不動産業（有効調査数：30件）	22

○本レポート作成の目的

地域の経済・消費動向の現状を把握し、その情報を提供することで小規模事業者が経営方針を明確にし、経営分析および事業計画の策定に有効活用できるようにし、小規模事業者の売上や利益の増進に繋がるなど経営基盤の強化につなげることを目的とします。

○本レポートの作成方法

福崎町商工会の会員事業所に対して「調査票」の記入を依頼、回収したデータを基に他の調査や情報とも比較してレポートを作成します。

I. 経済動向のポイント

【1】 兵庫県の経済・雇用情勢

- ① 兵庫県の経済・雇用情勢は、一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかに回復している。企業の業況判断は、足もと改善し、先行きは慎重な見方となっている。個人消費・設備投資・雇用は良好だが、輸出は増勢が鈍化しており、倒産件数も前年を上回った。
- ② 県内の主要業種は、各種商品小売業は好調だが、その他の業種の景況感は良くない。食料品製造業では円安の影響を受けており、化学工業では原材料価格が高騰している為、両業種の収益は低下している。人材派遣業では、人手不足と給与引上げで利益が減少した。
- ③ 各県民局・県民センターを代表する業種については、景況感はさほど良くない。鉄鋼業では建設・産業機械向けの在庫調整局面により、収益が低下している。道路旅客運送業業は人件費や燃料価格の高騰により、収益が減少している。

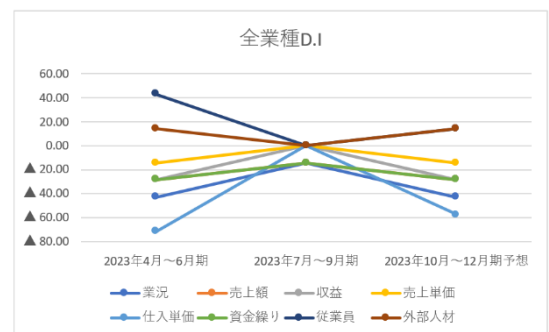
【2】 景況調査

① DI（ディフュージョン・インデックス）による分析。

DIとは景気の各項目事項について、「良い」と感じている企業の割合から、「悪い」と感じている企業の割合を引いた値を示しており、地域別・業種別の分析指標としている。

② 福崎町の2023年10月～12月期の全業種の景況感は低下傾向にあり、厳しい状況である。

福崎町の2023年7～9月期は、マイナスおよび0ポイントの厳しい状況である。当期の業況DIは▲14.29となり、前期の▲42.86から28.57ポイント上昇した。また、従業員・外部人材に関するDIが低下したが、売上額・収益・売上単価・仕入単価・資金繰りは上昇したものの、マイナスおよび0ポイントの厳しい状況である。10～12月期も低下の予想であり、予想業況DIは▲42.86である。



③ 姫路地域の卸売・不動産業の業況DIは横ばいであり、その他の業種は低下した。

但陽信用金庫の取引先全地域の6業種（製造業・卸売業・小売業・サービス業・建設業・不動産業）の調査では、2023年7月～9月期の姫路地域における業況DI実績では、卸売業・不動産業は横ばいであり、その他の業種は低下した。また、10月～12月期の姫路地域では卸売・不動産業以外では改善予想である。

【3】 中小企業診断士からのコメント

四半期に1回、経済動向のポイントを作成しているが、福崎町・姫路地域ともに、景況は一進一退を繰り返していると感じた。しかし、令和5年12月22日には、「中小企業・小規模事業者・地域経済関係予算案等のポイント」が公開され、令和6年度も手厚い支援策が実施される見込みである。令和5年度を概ね踏襲した内容ではあるが、事業再構築補助金については必要な見直しを実施される。一方、中小企業省力化投資補助制度が開始される見込みであり、令和6年度の支援策の柱の一つになると見込んでいる。

(令和5年12月30日 中小企業診断士 荒木慎吾氏)

II 兵庫県の経済・雇用情勢（「兵庫県の経済・雇用情勢」（令和5年12月15日）から引用）

1. 概況（全体の状況）

本県の経済・雇用情勢は、一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかに回復している。景況等…企業の業況判断は、足もと改善し、先行きは慎重な見方となっている。需要…個人消費は、回復に向けた動きが広がっている。輸出は、増勢が鈍化している。設備投資は、増加計画にある。生産…生産は、一部に弱めの動きがみられるものの、全体としては横ばい傾向にある。雇用…有効求人倍率は、前月を上回った。雇用者所得は、全体として改善の動きがみられる。金融…倒産件数は、前年を上回った。

主要指標の推移

①景況

現状（良い－悪い）構成比（%ポイント）

区分	R5.3月	R5.6月	R5.9月	R5.12月	R6.3月(予測)
全産業	5	9	10	17	10
大企業	6	13	21	25	17
中堅企業	11	11	15	20	7
中小企業	2	5	2	10	9
うち製造業	▲3	▲1	6	13	9
うち非製造業	17	20	15	21	11

（出所）県内企業短期経済観測調査（日本銀行神戸支店）

②需要

項目	R3年度	R4年度	R5.6月	R5.7月	R5.8月	R5.9月	R5.10月
商業販売額：億円	18,016	18,529	1,543	1,711	1,615	1,547	1,577
（前年度比増減率%）	(+0.3)	(+2.8)	(+2.5)	(+5.3)	(+4.2)	(+4.6)	(+3.1)
乗用車販売台数：台	141,627	144,966	13,587	12,843	11,247	14,810	13,496
（前年度比増減率%）	(▲7.3)	(+2.4)	(+31.2)	(+15.1)	(+20.1)	(+13.8)	(+16.0)
新設住宅着工数：戸	29,844	31,911	2,180	2,367	2,796	2,412	3,240
（前年度比増減率%）	(▲2.3)	(+6.9)	(▲15.7)	(▲5.7)	(▲0.0)	(+6.5)	(▲1.0)
神戸港輸出額：億円	61,512	73,698	6,489	6,456	6,069	6,693	6,522
（前年度比増減率%）	(+23.6)	(+19.8)	(+1.4)	(+7.4)	(+0.7)	(+7.2)	(▲2.5)

（出所）商業動態統計（経済産業省）、新車登録速報（日本自動車販売協会連合会兵庫県支部）、軽自動車新車届出状況（兵庫県軽自動車協会）、住宅着工統計（国土交通省）、神戸港貿易概況（神戸税関）（商業動態統計調査の前年度比増減率は全店ベース）

区分	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度(計画)
設備投資額（前年度比増減率：%）	▲1.2	2.4	▲13.4	8.3	1.1
（H27年度比：H27=100）	(113.9)	(116.6)	(101.0)	(109.3)	(110.5)

（出所）県内企業短期経済観測調査（日本銀行神戸支店）

③生産

項 目	R3 年度	R4 年度	R5.5 月	R5.6 月	R5.7 月	R5.8 月	R5.9 月
鉱工業生産指数：H27=100 (前月比増減率%)	93.9 (+0.9)	96.5 (+2.8)	91.7 (▲2.7)	93.0 (+1.4)	93.1 (+0.1)	89.7 (▲3.7)	92.3 (+2.9)

(月次は季節調整値、年度は原指数。年度増減率は前年度比較) (出所) 兵庫県鉱工業指数(県統計課)

④雇用

項 目	R3 年度	R4 年度	R5.6 月	R5.7 月	R5.8 月	R5.9 月	R5.10 月
有効求人倍率(季節調整値)：倍	0.94	1.03	1.00	0.99	0.99	1.01	1.03
新規求人数(原数値)：人 (前年度比増減率%)	28,235 (+5.3)	29,795 (+5.5)	29,269 (▲5.3)	28,891 (▲4.9)	26,712 (▲5.7)	29,329 (▲2.4)	31,918 (▲1.9)
雇用者所得計：円 (前年度比増減率%)	5,340 (▲1.1)	5,510 (+3.2)	7,873 (+3.3)	6,588 (+5.0)	4,850 (+4.8)	4,820 (+2.9)	= (=)

(出所) 一般職業紹介状況(厚生労働省兵庫労働局)、毎月勤労統計調査地方調査(県統計課)

⑤金融

項 目	R3 年度	R4 年度	R5.7 月	R5.8 月	R5.9 月	R5.10 月	R5.11 月
企業倒産件数：件 (前年度比増減率%)	329 (▲16.9)	368 (+11.9)	32 (+3.2)	45 (+95.7)	48 (+60.6)	48 (+45.5)	61 (+110.3)
企業倒産負債総額：億円 (前年度比増減率%)	294 (▲50.1)	649 (+120.5)	8 (▲45.1)	40 (+5.4)	5,869 (+11,340.6)	33 (+40.2)	49 (▲40.7)

(出所) 兵庫県企業倒産状況(東京商工サーキ神戸支店)

(参考1)全国景気の現状についての内閣府のコメント

景気は、このところ一部に足踏みもみられるが、緩やかに回復している。

- ・個人消費は、持ち直している。
- ・設備投資は、持ち直しに足踏みがみられる。
- ・輸出は、このところ持ち直しの動きがみられる。
- ・生産は、持ち直しの兆しがみられる。
- ・企業収益は、総じてみれば改善している。企業の業況判断は、総じてみれば緩やかに改善している。
- ・雇用情勢は、改善の動きがみられる。
- ・消費者物価は、上昇している。

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、世界的な金融引締めに伴う影響や中国経済の先行き懸念など、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

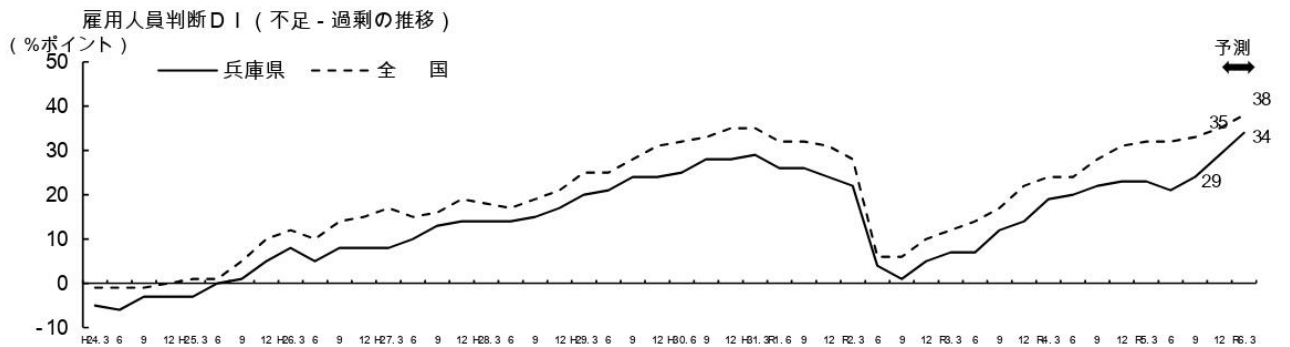
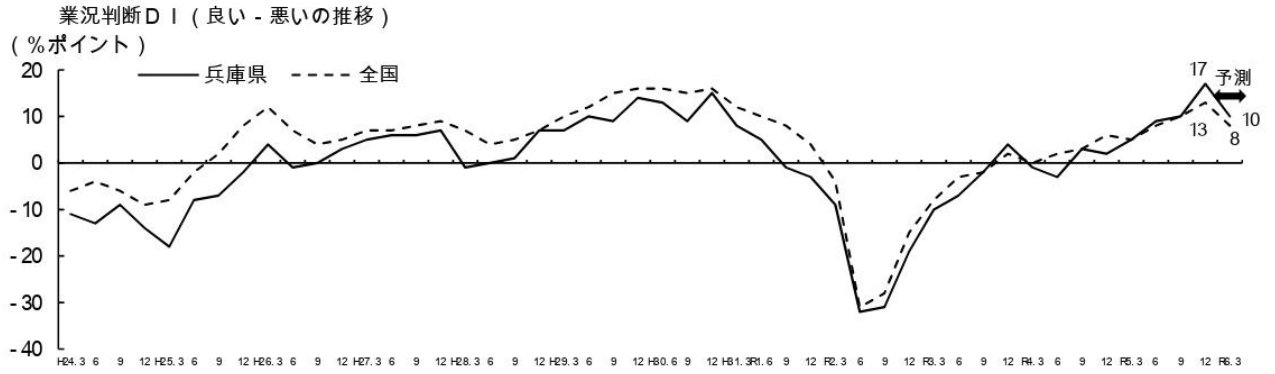
(令和5年11月22日 内閣府「月例経済報告」)

(参考2)県内景気の現状についての日本銀行神戸支店のコメント

管内の景気は、一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかに回復している。個人消費は、物価上昇の影響を受けつつも、緩やかに回復している。設備投資は、増加している。住宅投資は、持ち直している。公共投資は、緩やかに増加している。輸出は、増勢が鈍化している。こうした中、生産は、一部に弱めの動きがみられるものの、全体としては横ばい圏内で推移している。雇用・所得環境は、全体として緩やかに改善している。消費者物価(除く生鮮食品)は、前年を上回って推移している。

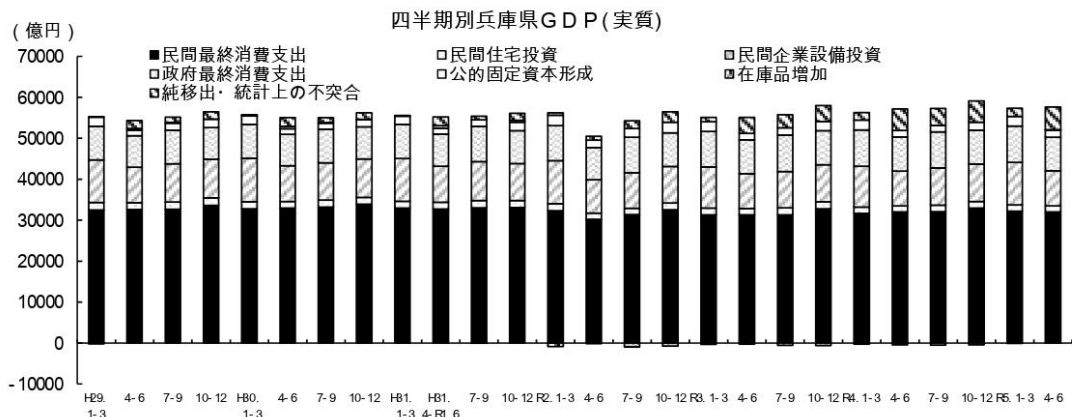
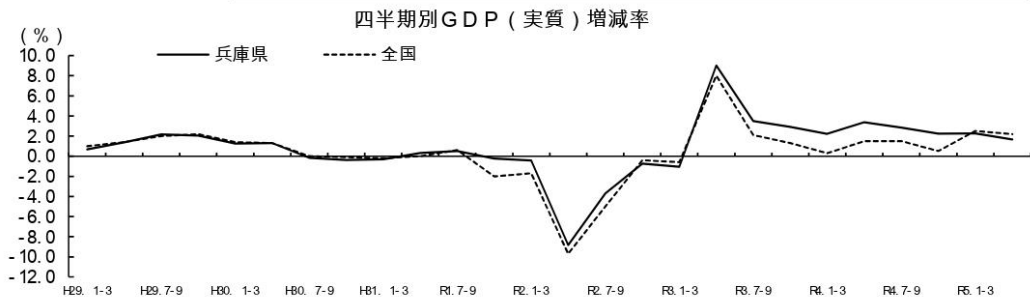
(令和5年12月13日 日本銀行神戸支店「管内金融経済概況」)

日本銀行神戸支店県内企業短期経済観測調査結果の推移



出所：令和5年12月全国・県内企業短期経済観測調査(日本銀行、同神戸支店)

GDP → 実質GDP(R5.4~6月期)は、民間最終消費支出及び地方政府等最終消費支出がマイナスに転じたものの、公的固定資本形成がプラスに転じ、民間住宅投資、民間企業設備投資、在庫変動等が引き続きプラスで推移し、対前年同期比は1.7%とプラスとなった。



出所：四半期別GDP速報(内閣府)、四半期別県内GDP速報(県統計課)

兵庫県・四半期別GDP(実質)(億円、増減率%)

	30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
GDP(実質)	221,885	222,083	214,240	223,361	229,336
前年度比	0.1	0.1	▲3.5	4.3	2.7

	H3.4-6	R3.7-9	R3.10-12	R4.1-3	R4.4-6	R4.7-9	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6
GDP(実質)	54,869	55,155	57,329	56,009	56,713	56,724	58,617	57,283	57,658
前年度比	9.0	3.5	2.9	2.2	3.4	2.8	2.2	2.3	1.7

兵庫県・四半期別GDP(名目)(億円、増減率%)

	30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
GDP(名目)	222,008	223,117	217,359	220,652	221,813
前年度比	0.1	0.5	▲2.6	1.5	0.5

	H3.4-6	R3.7-9	R3.10-12	R4.1-3	R4.4-6	R4.7-9	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6
GDP(名目)	54,910	54,273	56,769	54,700	54,879	53,790	57,124	56,020	57,726
前年度比	6.3	0.9	▲0.3	▲0.5	▲0.1	▲0.9	0.6	2.4	5.2

注1) 今後公表される年度確報値とのあいだに若干の差異が生じる場合がある。

また、推計精度をより高めるため、各計数は過去にさかのぼって変更されることがある。

前年度比は原数値の増減を示す。

注2) 数値は、平成27年基準値となっている。

注3) 令和2年度までの年度数値は「県民経済計算」(県統計課) 令和3、4年度の年度数値は「四半期別GDP」(県統計課)

2. 県内の主要業種の概況

業種	概況
電気機械器具 小売業	<p>景況感はさほど良くない。外出機会が増えたこともあり、需要が減少した。昨年同時期と比較しても、売上高・利益に特に変化はない。</p> <p>新型コロナが5類に移行した影響もあり、実際に店舗で商品を見て購入する方が増え、客数増加に繋がった。最近は趣味・嗜好に合った商品にお金をかける傾向にある。省エネ性能が高い商品や、高付加価値の商品も以前より人気がある。</p> <p>コロナ禍と比較すると落ち着いているものの、EC販売も一定の需要がある。</p>
各種商品 小売業	<p>第3四半期は売場の改装がほぼ完了したこともあり、売上は伸びる見込み。第4四半期も第3四半期同様に売上は伸びるだろう。</p> <p>新規売場がオープンした効果もあり、売上・客数共に増加している。食品では新規売場オープンによる買い回り効果もあった。また新型コロナが5類に移行し、お盆を家族や親戚で過ごす人も多く、洋菓子中心に箱物ギフト以外に、生ケーキの需要も好調であった。インバウンド消費により、新規ラグジュアリー売場等で売上が大幅に伸びている。</p>

令和5年10月 兵庫県産業労働部調査

業種	概況
食料品 製造業	<p>円安の影響もあり、景況感は悪い。夏頃に値上げを実施したこともあり、第3四半期は駆け込み需要の反動で売上は減少の見込み。コロナ禍以降手軽でストックしやすいことから、冷凍食品の売上が好調である。</p> <p>飲食店舗も好調で、コロナ禍前も上回っている状況。客単価、客数共に増加している。また、持ち帰り等の利用者が増えたことも売上増加に繋がっている。</p> <p>雇用人員は適正な状況。製造現場、飲食店舗も人手が充足できている。飲食店舗では、必要に応じてタイミー等も活用している。</p>
化学工業	<p>円安の効果もあり売上は上がっているものの、販売数量は減少している。第3四半期の売上、利益は第2四半期と変わらないだろう。前年同時期と比較しても変化はないと考えている。金利の落ち着きや経済の上向きもあると考えており、今後の見通しについてそこまで悲観的には見えていない。</p> <p>雇用面人員は適正な状況である。新型コロナの影響も落ち着き、人手不足の話も特に聞かれていない。新卒、キャリア採用も引き続き実施している。</p> <p>原材料価格高騰により、利益に影響が出ている。原材料価格のピークは昨年後半で、現在は高止まりしている状況。調達状況には大きな問題はない。</p>
電子部品・ デバイス電子 回路製造業	<p>景況感は悪い。3か月後も同じ状況と見込んでいる。車載用パワー半導体の需要は堅調であるが、スマートフォン、パソコン、ゲーム、家電用半導体はコロナ禍特需の反動で落ち込みが続いており、回復まで時間がかかりそうである。</p>

	<p>売上高・利益は前期、前年比ともに減少。また、スマートフォン等IT関連の需要の落ち込みから、受注状況も前期、前年比ともに減少。</p> <p>自動車の電動化による継続的な需要拡大が見込まれることから、車載用パワー半導体の製造等新設を決定している。</p>
無 小 店 売 舗 業	<p>景況感はさほど良くない。3か月後も同じ状況と見込んでいる。物価高もあり、消費が生活必需品を優先し、雑貨などの趣味には向かいにくい。</p> <p>第2四半期までの累計売上高は前期比で減少しているものの、コロナ禍での巣ごもり需要が大きかったため、以前の水準に戻ったといえなくはない。</p> <p>今後、企画商品の差別化や商品価値の魅力的かつ効果的な表現が課題である。また、新たな顧客開発に着手し、顧客との継続的な接点を生み出し、一定数の定着を目指す。</p>
人 材 派 遣	<p>景況感は良くも悪くもない。3か月後も同じ状況と見込んでいる。派遣依頼は好調であるものの、派遣スタッフが足りていない。年度当初と比べて、不足感が増している。</p> <p>平均派遣単価の上昇により、第1四半期の売上高は増加しているものの、戦略的な派遣スタッフの給与引き上げにより利益は減少。</p> <p>理学系派遣市場は成熟しており、大きな伸びが期待できないことから、CRO事業への注力や、事務職派遣の全国展開などを行っている。</p>

令和5年11月 兵庫県産業労働部調査

3. 地域の概況

地域	業種	概況
神戸	娯 楽 業	<p>行楽シーズンという季節的な要因もあるが、国内観光客、インバウンドとも好調である。スキーシーズンが始まるとさらにインバウンドが見込めそうな上、国内も団体客が増えるだろう。それでもコロナ禍前の状態までは回復していない。</p> <p>電気代の高騰は経営を圧迫するほどの影響はない。食材等の値上げも価格転嫁できている。入園料やケーブルカー乗車券を値上げしても、他の施設や鉄道・バスも値上げしているので理解を得やすいからか、入場者数が減るといったことはない。</p>
	宿 泊 業	<p>インバウンドが復活し、コロナ禍前の水準まで回復している。まだ中国からの観光客は少ないが、欧米やアジア圏が増加しており、非常に好況。この先も、新たな災害等がなければ、しばらくこの好調は続くと思込まれる。</p> <p>客室数を減らして高付加価値化した客室に改装したことで、客室稼働率は95%にまで上がっているが、OTAの利用料が高い。</p> <p>素泊まりして、宿周辺の飲食店で食事するという、これまでの有馬になかった過ごし方の提案をしようと</p>

神戸 (続き)		近隣の宿泊業者とも連携しているが、そうした客数は思うように伸びていない。広報の仕方が難しい。
阪神南	設備工事業	<p>景況感はさほど良くない。電池・半導体関連の設備投資は継続して積極的であり、食品・飲料・医薬品プラントも国内需要を受けて横ばいであるが、企業の設備投資意欲に反し、工事業者の職人不足感は改善の見込みはなく、求人募集にもほとんど応募がない状況。</p> <p>一方、ステンレス等の原材料高はすべて価格転嫁できており、今後の事業への影響はない見込み。また、今後は賞与アップによる賃金引上げや経理クラウドによるIOT導入も検討している。</p>
	飲料食料品業 卸 売	<p>消費者の食生活や購買行動の多様化が進むにつれ、小売業の業種・業態を超えた競争が激しくなっており、景況感はさほど良くない。さらに、断続的に続く商品の値上げにより、生活防衛意識が一層強くなると予想され、消費マインドの冷え込みが顕在化しており、小売業への販売支援や品揃えの差別化が必要となっている。</p> <p>また、原油価格の高止まりや円安、2024年問題等による人件費上昇により、物流委託先からの値上げ要請による収益低下が懸念される。</p>
阪神北	宿 泊 業	<p>秋は年間で最も忙しい時期であるなか、昨年度に比べ宿泊客は増加しているが、コロナ禍前の状態にまでは至っていない。特に団体客の戻りが悪い状況が続いている。忘年会シーズンを迎え、宴会の予約も入り始めている。エネルギー価格の高騰や一部食材の高騰もあるが、価格の転嫁は一部にとどまる。</p> <p>接客者などは引き続き人手不足感が強い状況が続いている。</p> <p>少数であるが、海外からの宿泊客もあり、欧米系の旅行者が増えてきている。今後、地元の観光資源を生かしたインバウンド需要を取り込む方策も検討していく。</p>
	電 子 部 品 業 製 造	<p>昨年と比べると緩和されつつあるものの、依然として半導体不足の状況が続いており、景況感としては、あまり良くない状況が続いている。</p> <p>部品・部材をほとんど海外から輸入しており、納入に期間を要する状況が続く中、為替の影響による部品仕入価格や輸送コストが上昇しているが、一部しか価格転嫁できず業績に影響を及ぼしている。</p> <p>代替材料・部品の利用、営業努力のほか、業務の効率化の取組を進めている。</p>

東播磨	各種商品 小売業	<p>コロナ禍が明け、昨年度より需要回復はあるものの、円安や値上げの影響により、セール日等の買いだめや買い控えがあるため、景況感はさほど良くない。</p> <p>品目別で見ると、食品は好調であるが、耐久製品や衣料品については、あまり良くない。</p> <p>雇用人員については、定年退職等の自然減により不足している。コロナ禍が明け、働き口が増えたことで、部署によっては応募数が減少傾向にある。</p>
	人材派遣業	<p>価格高騰の影響を受けて、通年、年末に向けて需要が高まる食品関係や物流関係の受注量が減少しており、現在の景況感及び見通しはさほど良くない。</p> <p>雇用については、一定の応募はあるものの、食品工場や製造工場の短期スタッフの確保に苦慮している。</p> <p>人材派遣業のため、原油・原材料価格の高騰による影響は直接には受けていないが、今後、取引先企業からの派遣オーダーが減少する可能性を懸念している</p>
北播磨	繊維製品 製造販売業	<p>前年同期と比べ売上高、収益とも増加傾向にある。コロナの影響も幾分収まり、海外工場での生産も戻りつつあるので景況・売上も増加している。</p> <p>国内では電気料金の高騰や備品経費の上昇が見込まれるが、それ以外は以前より落ち着いてきている。</p> <p>海外研修生を受け入れてきたが、今後は現地の社員を国内で研修し海外工場の管理者として育成していく。大手取引先は下請けが複数有り単独での値上げはできない仕組みになっている。</p>
	電気機械器具 製造業	<p>前年同期に比べ景況も売上も大きな変化はないが、これまでの景況が良すぎたため前年と比較をするとどうしても悪い状況となってしまう。</p> <p>取引先であるネット通販大手の活況が続いていたが、海外情勢の関係で受注が一時的に延期されている。</p> <p>コロナ禍により開催がなかった展示会も開かれ、いくつかの大口商談も来ているが、契約はかなり先になる。また、現在の円安はプラスに作用している。</p>
中播磨	鉄鋼業	<p>景況感さほど良くない。自動車メーカーの生産は回復傾向にあるものの、その度合いが緩やかであることに加え、建設・産業機械向けにおいて在庫調整局面が続いていることから、売上、利益ともに前年度を若干下回っている。</p> <p>設備投資面では、中期計画を見直し、省エネ設備の導入を当初計画より増やすこととしている。</p> <p>雇用面について、現在は概ね計画通り採用できているが、工業高校生の採用が厳しくなっていることなどを踏まえ、採用活動に力を入れている。</p>

中播磨 (続き)	道 路 旅 客 運 送 業	<p>景況感はさほど良くない。新型コロナの収束に伴い利用客は回復基調にあるが、人件費や燃料価格の高騰などの影響もあり、昨期と比べ利益は減少している。今後の運賃改定により、一定の価格転嫁は進む見込みであるが、コロナ禍で見送っていた車両購入等を進めていく必要があるため、この先の状況も楽観はしていない。雇用面では運転士職を中心に不足しているが、募集を行えば中途採用では一定程度の応募がある状況。</p>
西播磨	各 種 商 品 小 売 業	<p>景況はさほど良くない状況であり、3か月後も同様と予測している。商品単価の値上がりにより売上は増加しているものの、大きな利益には結びついていない状況である。</p> <p>消費動向としては、客単価は増加しているが客数は変化がない。値上げが相次ぐなか、プライベートブランド商品など、比較的、単価が安い商品が売れている。現在は新店舗計画に向けて、より効率的に事業を行うための検討を重ねている。</p>
	総 合 工 事 業	<p>景況はさほど良くない状況であり、3か月後も同様と予測している。</p> <p>リフォーム契約については順調に推移しているが、新築契約については減少している。住宅を取得しようとする世代(30代等)の減少や資材高騰等による建築経費の増加等が要因ではないかと分析している。新築住宅やリフォームの受注だけでなく、分譲住宅の販売にも力を入れることとしている。</p>
但馬	食 料 品 製 造 業	<p>11月の景況感の良い。原材料価格高騰が続き、9月に商品価格改定した。今四半期の売上は前四半期比15%増加、利益は同10%減少を見通す。商品価格改定前の駆け込み需要で受注が増加したことが要因と推測する。最近の消費動向としてB to Cの傾向が強い。通販システムの更新などで受注増加に対応していく。生産性向上による処遇改善のため、国の助成金を活用し従業員のキャリア形成支援や自己啓発を積極的に支援している。</p>
	娛 楽 業 宿 泊 業	<p>景況感の良い。今四半期の売上高・利益は昨年同期比で5%増、前年同期比で10%増となった。宿泊客数はコロナ禍前の9割近くに回復した。原材料価格高騰対策として一部で代替品を使用していたが、代替品も値上げになり、宿泊費やお土産代への価格転嫁を余儀なくされた。</p> <p>設備投資では、国の補助金を活用し一部客室と売店をリニューアルする。雇用関係では採用機会の確保が難しく、地域全体の人手不足がコロナ禍前に比べ深刻化している。</p>

丹波	その他製造業	景況感はさほど良くない。原材料の多くを輸入しているため、円安によるマイナスの影響を大きく受けている。仕入れ先の変更の他、部署毎にコスト削減目標を立てて取り組んでいる。また、主力製品の性質上、アフターコロナによる需要減により、売上が減っている。輸出についても、国によっては不況により売上が伸びない状況である。
	不動産取引業	景況感はさほど良くない。建築部門では、ウクライナ情勢を機とした資材費の高騰が続いているものの、価格転嫁を実施しているため、収益に大きな影響は見られない。不動産部門では、入居率が低い状態が続いており、新築物件への集中がみられる。 人材については、建築職などの専門的人材がやや不足している状況が続いている。
淡路	業務用機械器具製造業	新規の契約等が多く景況感が良いが、製造部門の人材不足や、原材料価格の高騰が業況等へマイナスの影響を与えるなど、課題を抱えている。また、半導体不足等により、インバータ等の納期が不定期になるなど、生産への影響が出ている。加工工程の合理化や、代替材料の利用を行うなど、業務改善・構造改善に取り組んでいる。 高齢者の新しい働き方として、技術や知識を有する人が、自宅を拠点に依頼のあった場合のみ実働するような限定的な雇用形態を検討している。
	窯業・土石製品業	原油・原材料価格の高騰により、焼成用のブタンガスや、梱包資材等が高騰し、業況等へマイナスの影響を与えている。一部価格転嫁を行っているが、景況感は悪く、取引先の廃業などもあり依然として状況は厳しい。また、半導体不足の影響等により、故障した機械部品への対応が困難になるなど、部品調達に苦慮している。景観材については、受注や問い合わせが一定数あり、今後も営業力の強化や、ホームページの改善等により、顧客の獲得を図っていく。

令和5年11月 県民局・県民センター調査

Ⅲ. 景況調査

Ⅰ. 景況調査について

○『DI (ディフュージョン・インデックス)』による分析

DIとは、景気の各項目事項について、「良い」と感じている企業の割合から、「悪い」と感じている企業の割合を引いた値を示します。右の表の場合、「良い」20%－「悪い」30%＝－10%となり、DI値は－10ポイントと示すことができます。

業況	件数	構成比
良い	10件	20%
不変	25件	50%
悪い	15件	30%
合計	50件	100%

○引用する調査書と有効回答数について

本レポートの作成にあたり、但陽信用金庫が四半期毎に実施する「景気動向調査」の調査結果を引用しています。

(対象期間内における有効回答数)

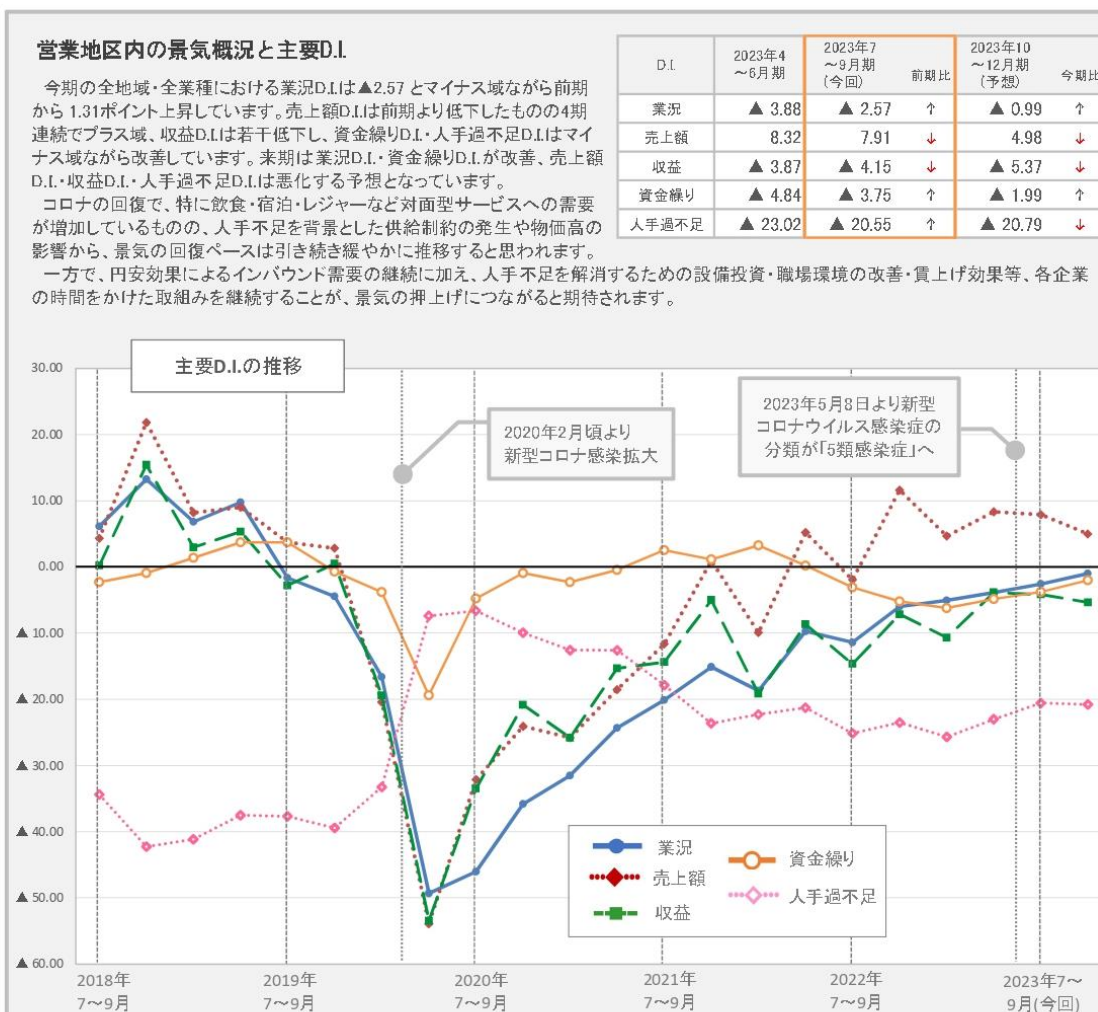
	エリア	製造業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業
景気動向調査 (但陽信用金庫)	取引先全地域	506件					
中小企業景況調査 (福崎町商工会)	-	1件	0件	2件	3件	1件	0件

○業種の分類について

本レポートでは、飲食・宿泊業は「サービス業」とあわせて集計しています。

2. 概況（全業種総合）

《但陽信用金庫》



《福崎町商工会》

(全業種)	2023年 4月～6月期	2023年 7月～9月期	2023年 10月～12月期予想
業況	▲ 42.86	▲ 14.29	▲ 42.86
売上額	▲ 28.57	▲ 14.29	▲ 28.57
収益	▲ 28.57	0.00	▲ 28.57
売上単価	▲ 14.29	0.00	▲ 14.29
仕入単価	▲ 71.43	0.00	▲ 57.14
資金繰り	▲ 28.57	▲ 14.29	▲ 28.57
従業員	42.86	0.00	14.29
外部人材	14.29	0.00	14.29

[2023年7～9月期]：マイナスおよび0ポイントの厳しい状況

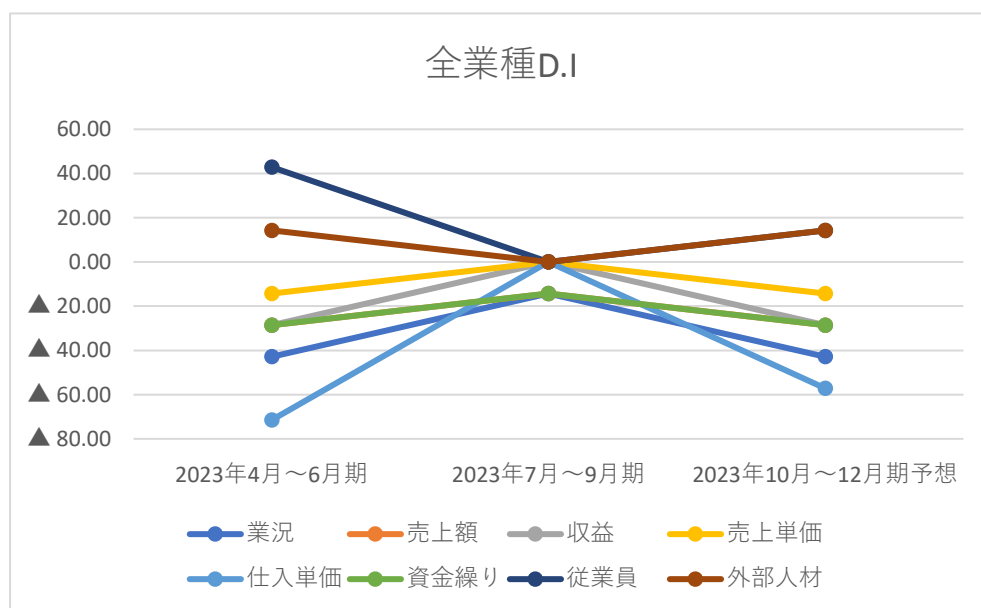
当期の業況DIは▲14.29となり、前期の▲42.86から28.57ポイント上昇しました。

また、従業員・外部人材に関するD.Iが低下したが、売上額・収益・売上単価・仕入単価・資金繰りは上昇したもののマイナスおよび0ポイントの厳しい状況です。

[2023年10～12月期]：低下の予想

来期の予想業況DIは▲42.86で低下予想です。

従業員・外部人材に関するD.Iが上昇し、売上額・収益・売上単価・仕入単価、資金繰りは低下の厳しい予想です。



3. 業種ごとの集計《但陽信用金庫》

(1) 製造業

■ 製造業

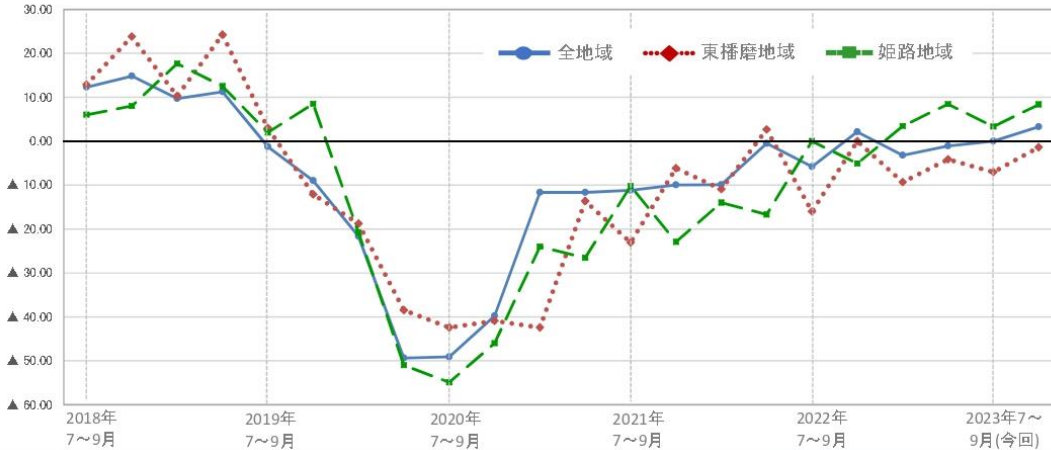
回答企業 182 社 回答率 97.8 %



地域別業況D.I. >>

全地域の業況D.I.は、前期から 1.07 ポイント改善しています。東播磨地域は▲7.04 と 2.87 ポイント低下、姫路地域は 3.33 と 5.14 ポイント低下しています。来期は全地域および全ての地域別で改善する予想となっています。

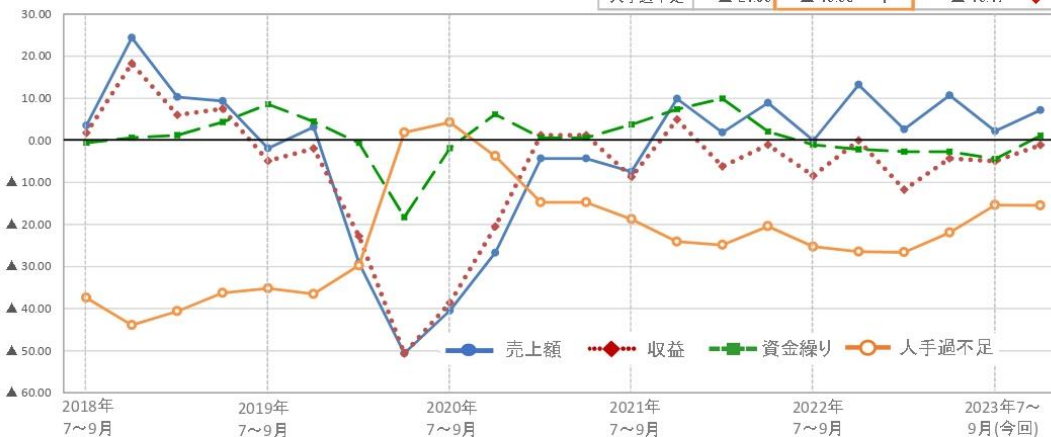
地域 (回答数)	2023年 4~6月期	2023年7 ~9月期 (今回)	前期比	2023年10 ~12月期 (予想)	今期比
全地域	182 ▲ 1.07	▲ 0.00	↑	3.30	↑
東播磨地域	71 ▲ 4.17	▲ 7.04	↓	▲ 1.41	↑
姫路地域	60 8.47	3.33	↓	8.33	↑



その他主要D.I. >>

今期は、売上額D.I.・収益D.I.・資金繰りD.I.が悪化、人手過不足D.I.は前期から改善しています。来期は売上額D.I.・資金繰りD.I.・収益D.I.が改善、人手過不足D.I.がわずかに低下する予想となっています。

D.I.	2023年 4~6月期	2023年7 ~9月期 (今回)	前期比	2023年10 ~12月期 (予想)	今期比
売上額	10.70	2.20	↓	7.18	↑
収益	▲ 4.28	▲ 4.95	↓	▲ 1.10	↑
資金繰り	▲ 2.69	▲ 4.40	↓	1.10	↑
人手過不足	▲ 21.93	▲ 15.38	↑	▲ 15.47	↓



経営上の問題点(複数回答 上位5項目)

売上の停滞・減少	74社
原材料高	64社
人手不足	56社
利幅の縮小	44社
同業者間の競争激化	37社

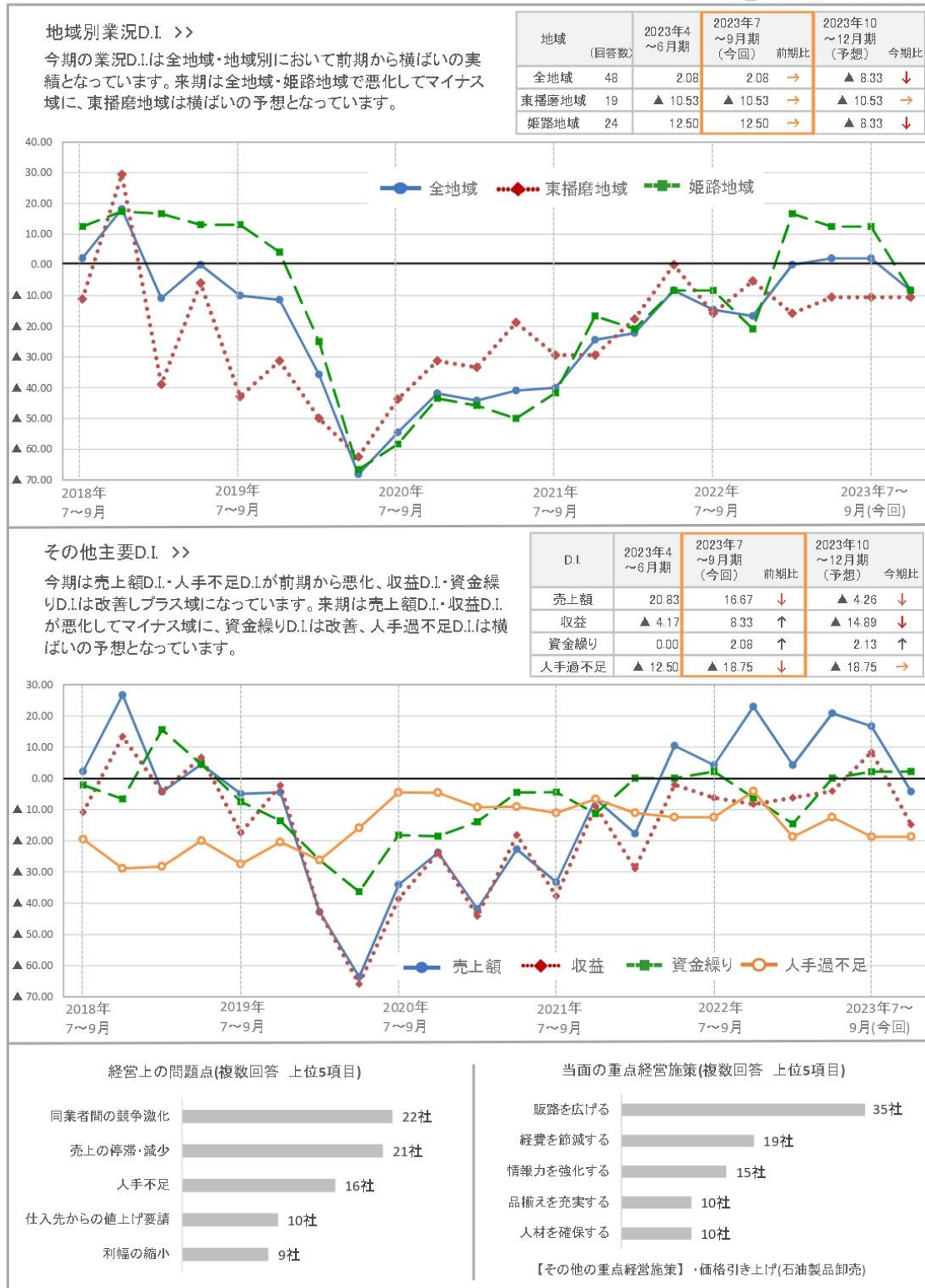
【その他の問題点】・北米情勢の影響(鉄鋼業)

当面の重点経営施策(複数回答 上位5項目)

販路を広げる	116社
経費を削減する	82社
人材を確保する	55社
情報力を強化する	53社
機械化を促進する	31社

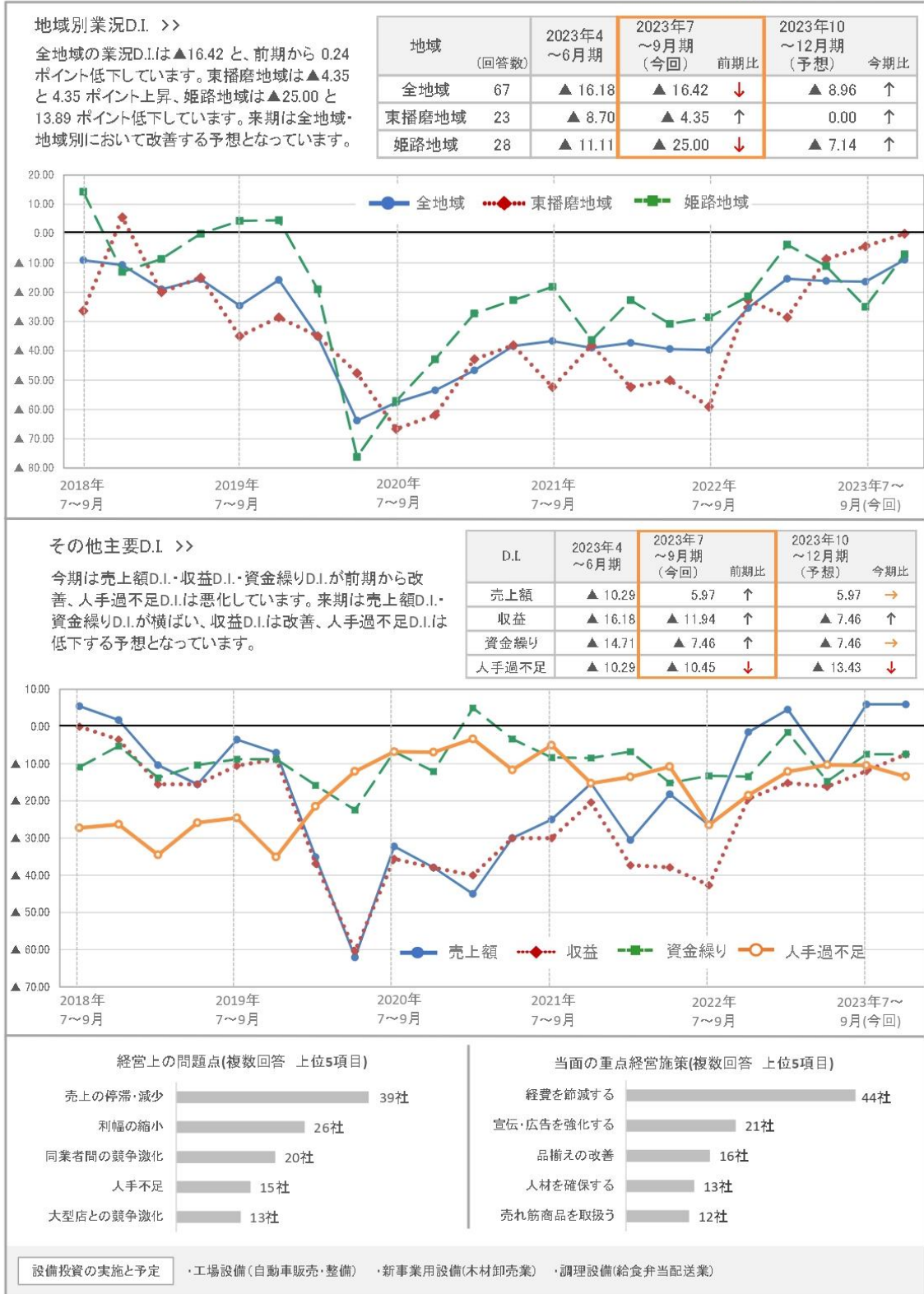
(2) 卸売業

卸売業 回答企業 48社 回答率 100.0%



(3) 小売業

■ 小売業 回答企業 67社 回答率 98.5%



(4) サービス業

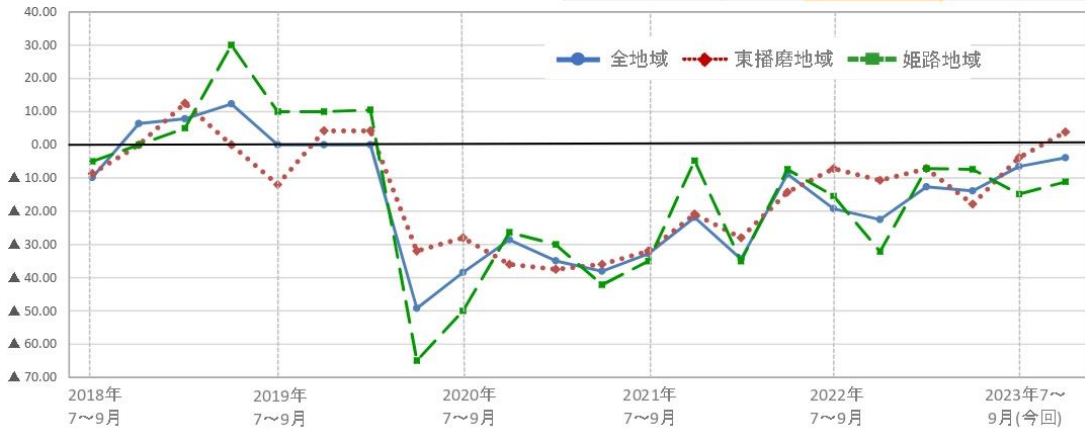
■ サービス業 回答企業 77社 回答率 96.3%



地域別業況D.I. >>

全地域の業況D.I.は▲6.49 と、前期から 7.43 ポイント上昇、東播磨地域も▲3.85 と 14.01 ポイント上昇、姫路地域は▲14.81 と 7.40 ポイント低下しています。来期は全地域・地域別において改善する予想となっています。

地域 (回答数)	2023年 4~6月期	2023年 7~9月期 (今回)	前期比	2023年10 ~12月期 (予想)	今期比
全地域	▲ 13.92	▲ 6.49	↑	▲ 3.90	↑
東播磨地域	▲ 17.86	▲ 3.85	↑	3.85	↑
姫路地域	▲ 7.41	▲ 14.81	↓	▲ 11.11	↑



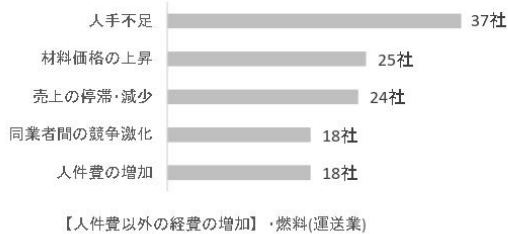
その他主要D.I. >>

今期は、売上額D.I.が前期より改善したものの、収益D.I.・資金繰りD.I.・人手過不足D.I.は悪化しています。来期は売上額D.I.・収益D.I.・資金繰りD.I.が悪化、人手過不足D.I.はわずかながら上昇する予想となっています。

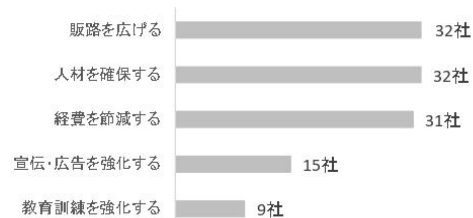
D.I.	2023年 4~6月期	2023年 7~9月期 (今回)	前期比	2023年10 ~12月期 (予想)	今期比
売上額	15.19	19.48	↑	0.00	↓
収益	6.33	2.60	↓	▲ 9.09	↓
資金繰り	▲ 10.13	▲ 14.29	↓	▲ 16.88	↓
人手過不足	▲ 34.18	▲ 35.06	↓	▲ 33.77	↑



経営上の問題点(複数回答 上位5項目)



当面の重点経営施策(複数回答 上位5項目)



(5) 建設業

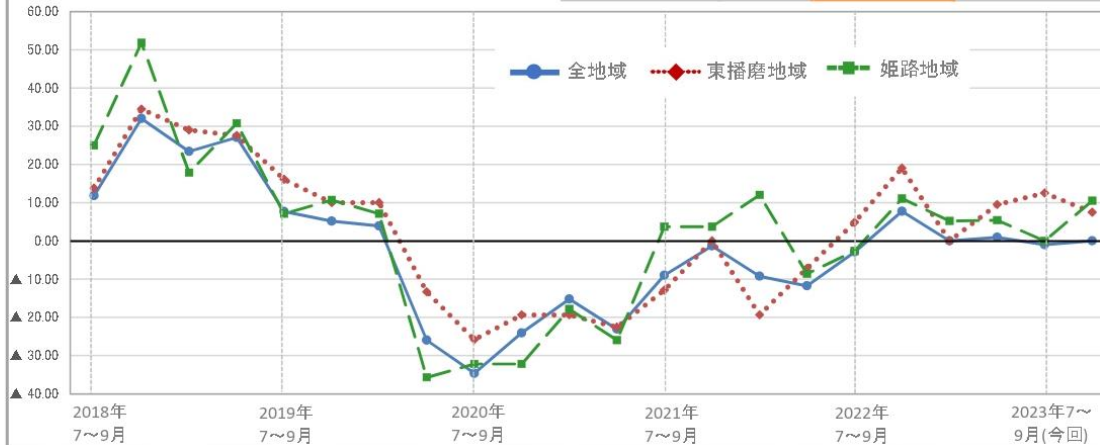
■ 建設業 回答企業 102社 回答率 98.1%



地域別業況D.I. >>

全地域の業況D.I.は前期から1.94ポイント低下し▲0.98、東播磨地域も2.98ポイント上昇し12.50、姫路地域は5.41ポイント低下しています。来期は全地域・姫路地域で改善、東播磨地域は悪化する予想となっています。

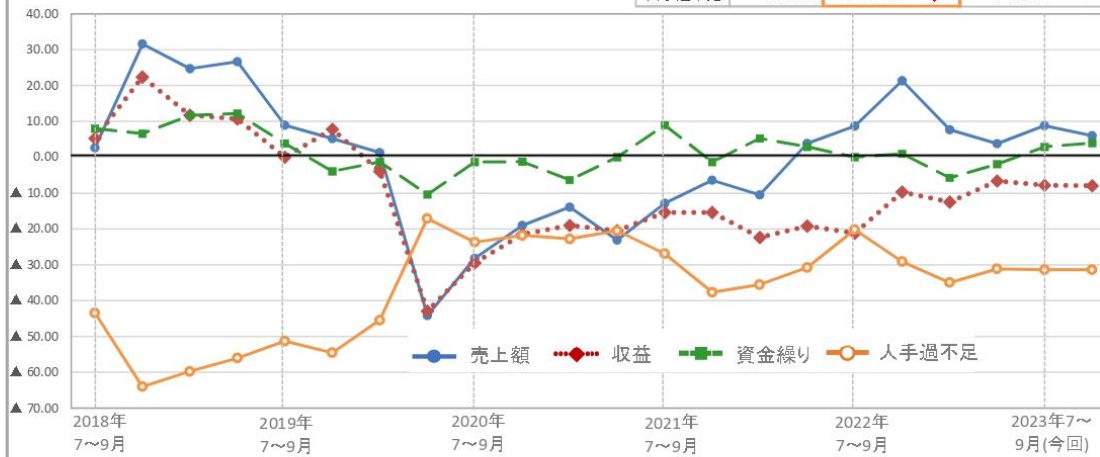
地域 (回答数)	2023年4 ~6月期	2023年7 ~9月期 (今回)	前期比	2023年10 ~12月期 (予想)	今期比
全地域	0.96	▲0.98	↓	0.00	↑
東播磨地域	40	12.50	↑	7.50	↓
姫路地域	38	5.41	↓	10.53	↑



その他主要D.I. >>

今期は売上額D.I.・資金繰りD.I.が改善、収益D.I.・人手過不足D.I.は前期から悪化しています。来期は売上額D.I.・収益D.I.が悪化、資金繰りD.I.は改善し、人手過不足D.I.は横ばいの予想となっています。

D.I.	2023年4 ~6月期	2023年7 ~9月期 (今回)	前期比	2023年10 ~12月期 (予想)	今期比
売上額	3.77	8.82	↑	6.00	↓
収益	▲6.60	▲7.84	↓	▲7.92	↓
資金繰り	▲1.89	2.94	↑	3.96	↑
人手過不足	▲31.13	▲31.37	↓	▲31.37	→



経営上の問題点(複数回答 上位5項目)

材料価格の上昇	50社
人手不足	41社
売上の停滞・減少	31社
同業者間の競争激化	26社
利幅の縮小	25社

当面の重点経営施策(複数回答 上位5項目)

人材を確保する	51社
販路を広げる	50社
経費を節減する	40社
情報力を強化する	22社
技術力を高める	19社

【その他の重点経営施策】・受注金額の見直し(土木工事業)

(6) 不動産業

■ 不動産業 回答企業 30社 回答率 100.0%

